

準要保護児童・生徒のクラブ活動費援助 「来年度予算で改めて検討」と答弁

文教経済常任委員会にて上野議員質問

9月12日行われた文教経済常任委員会での決算審査の中で、秀沢教育部長は、「小中学校の準要保護児童・生徒に對して、クラブ活動費を修学援助費の対象にすることを、平成25年度予算編成作業の中で検討していく」と答弁しました。上野議員の質問に答えたものです。

上野議員は、平成22年の9月議会で、「文部科学省の指導事務関係説明資料では、要保護だけでなく準要保護の児童・生徒に對しても、新たにPTA会費、児童会費、クラブ活動費の3費目を援助対象に加えている。上越市でもしつかりと援助対象にするべきだ」と、一般質問で

就学援助費対象数(項目別)の推移(上越市内の小中学校)

区分	21年度実績	22年度実績	23年度実績
学用品費	1502人	1571人	1563人
体育実技用具費	388	510	518
新入学用品費	199	197	211
修学旅行費	225	263	304
通学費	8	7	7
医療費	290	237	202
給食費	1487	1585	1527
PTA会費		3	1173
クラブ活動費		3	3
児童会費		3	1563
合計	1508人	1611人	1616人

22年度のPTA会費・クラブ活動費・児童会費は要保護のみ対象
23年度からPTA会費、児童会費の対象を準要保護へ拡大



9月12日の文教経済常任委員会で質問する上野議員

されていませんでした。今回、上野議員は、「相対的貧困率の増加とともに子どもの貧困率も高まっている。この3年間を見ても就学援助を必要とする子どもは確実に増加している。クラブ活動は大事な教育活動の一環だ。経済的な問題でクラブ活動に参加できない状況を生んではいけません。準要保護児童・生徒のクラブ活動費も対象にすべきだ」と、あらためて迫りました。

最初はこれまでの方針と変わらない答弁でしたが、再三の質問に検討を約束したものです。

12月議会には方向性を示したい

大山温泉あさひ荘対策で山岸副市長

9月13日の文教経済常任委員会で、現在経営破たんし休館中の「大山温泉あさひ荘」について、上野議員の質問に對して12月議会までに方向性を示したいと答えました。上野議員と副市長のやりとりは次の通り。

(上野議員) この春、あさひ荘が経営破綻したのは大変残念であるが市の責任も大きい。市の責任をしつかり総括したのか。会社が負担した5千万円分は本来市が負担しなくてはならない分ではないかということもある。監督責任を市は認めるべきではないか。

山岸副市長は6月議会では「再開の模索、検討をしている」と答弁したが、その検討の結果を知りたい。また、この間、地元から再開の要望が強く出されている。当施設は大島区の観光やまちづくりの中心であり再開の要望は強い。市はどのような検討をしているのか。展望を示すことは市の責任である。

(山岸副市長) 7月段階から、観光や企画、行革関連各部署で地元からの要望を聞いてきた。それをもとに、今後どうできるのかを9月10月段階で行政で最終的な詰めを行い、できれば12月議会中ぐらいに議会と地元と方向性を出して、再開できるならば来年度から再開するということ方向を含め展望を示したい。再開できるならば、行政が直轄で運営をしていくのか、場合によっては民間でやってもらえるのか、また、再開ができれば今後どのような整理をするのかという方向を含めて、今の予定では、12月議会の段階で示せるように検討を進めている。

平良木議員を囲んで 楽しい焼肉のつどい

16日午後、金谷山公園の芝生広場で、平良木議員を囲んでの「焼き肉のつどい」が行われました。

地元金谷区をはじめ、高田の各地から80人を超える参加で、暑さも何のそのと盛り上がりました。

ビールを酌み交わしながら、「こんな猛暑でも電気は停まらなかった。やっぱり原発はいらないね」「T P Pでコメや医療が壊されちゃたいへん」「介護保険料も下げて!」と、話題は政治のゆがみや暮らしを守ることが中心。国政も市政も、「焼き肉を食べたエネルギーで変えていくぞ」と、意気を揚げました。



一般質問

- 平良木議員
21日午後4時前後
- 上野議員
21日午後4時半以降
または24日10時
- 橋爪議員
25日11時頃～
時間配分によって前後することもあります。
ぜひ傍聴においでください。

日本共産党上越市議員団ニュース

No.338 2012年9月23日

連絡先
橋爪 法一 090-5392-1961 (吉川区代石)
上野 公悦 090-7260-9407 (頸城区中柳町)
平良木 哲也 090-1808-6919 (上中田)